

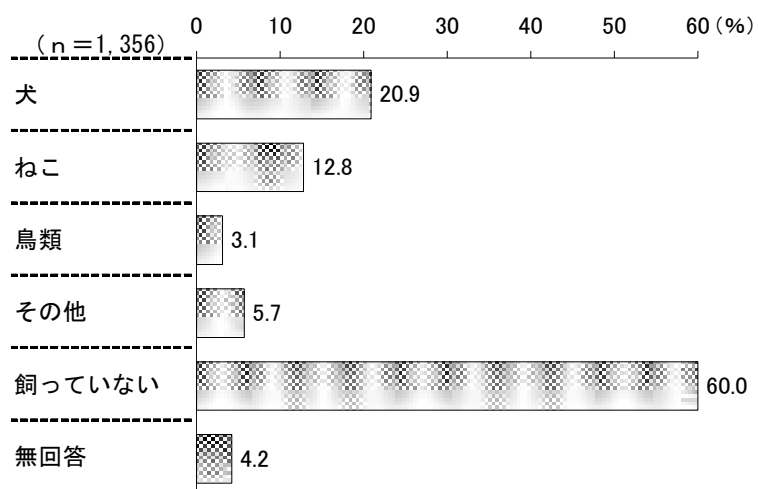
## 7 動物愛護について

### (1) 動物の飼育状況

問27 あなたは、現在動物を飼育していますか。次の中からいくつでも選んでください。

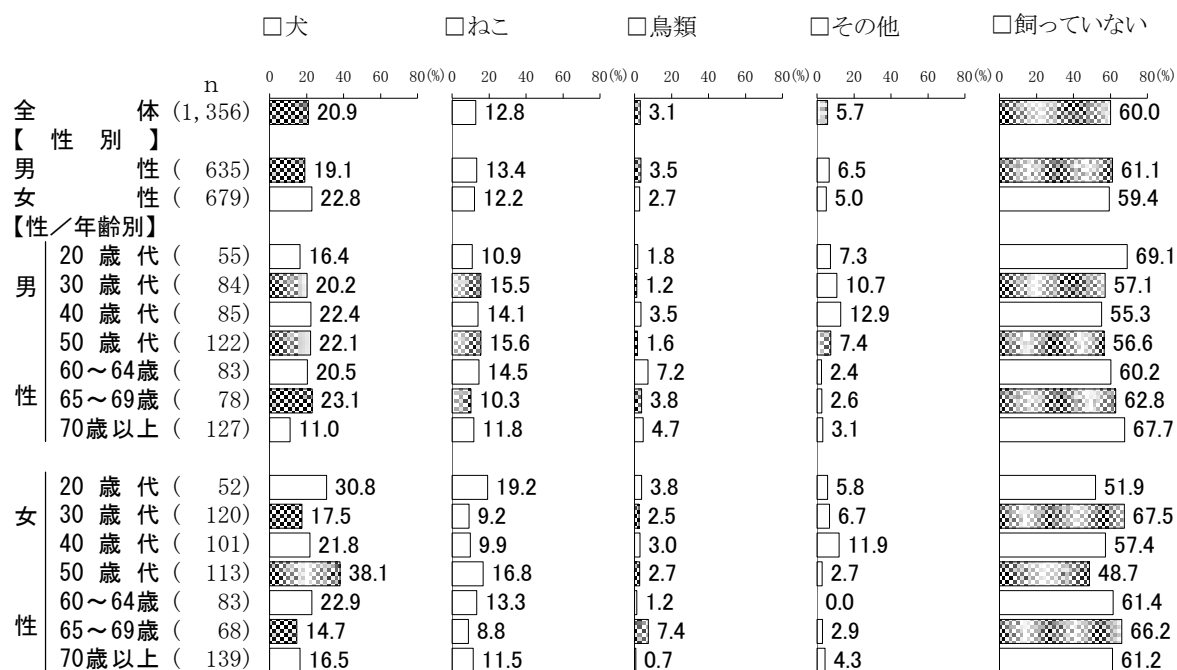
[n=1,356]

1 犬	20.9%	4 その他	5.7%
2 ねこ	12.8	5 飼っていない	60.0
3 鳥類	3.1	(無回答)	4.2



全体で見ると、「犬」(20.9%)がほぼ2割、「ねこ」(12.8%)が1割を超え、「鳥類」が3.1%となっている。「飼っていない」(60.0%)は6割となっている。

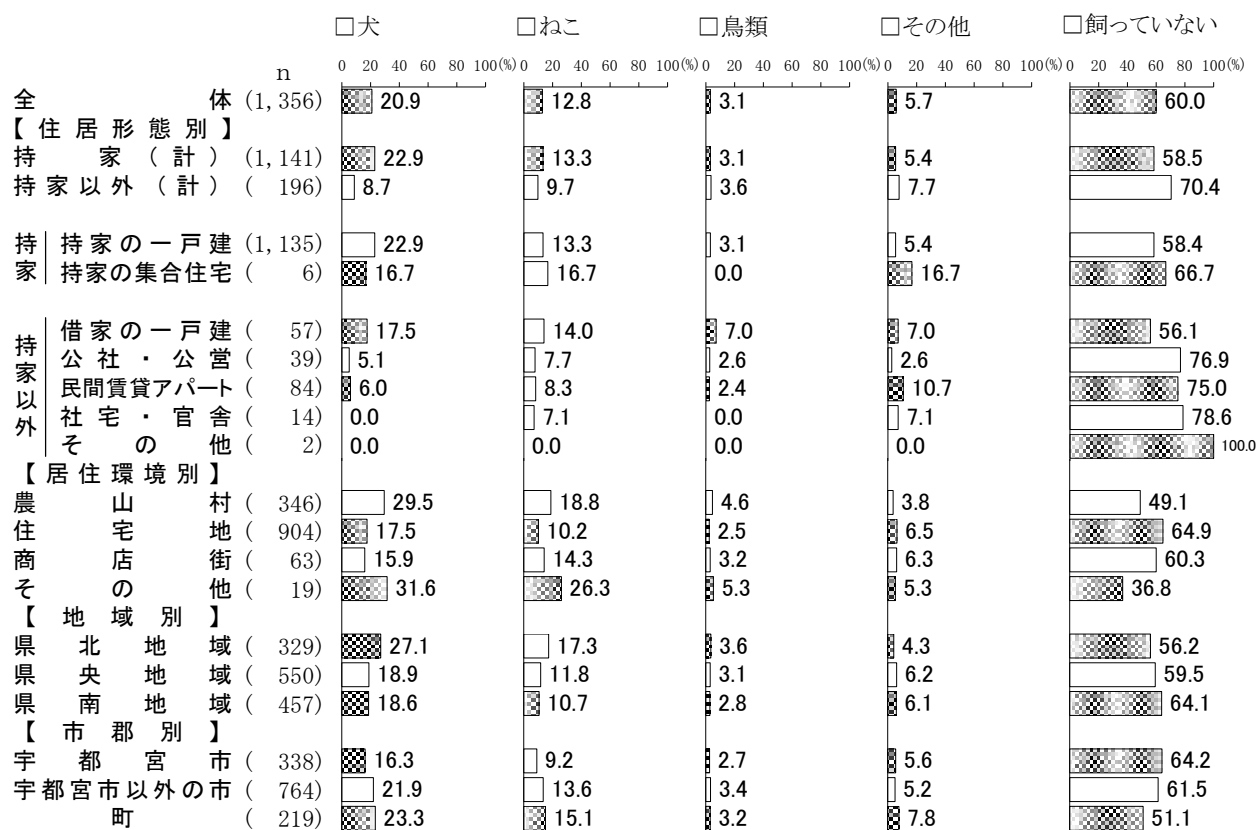
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「犬」では〈女性〉(22.8%)が〈男性〉(19.1%)より3.7ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「犬」では〈女性50歳代〉が38.1%、〈女性20歳代〉が30.8%と他の年代に比べて高くなっている。「飼っていない」では〈男性20歳代〉が69.1%となっている。

[住居形態別・居住環境別・地域別・市郡別]



住居形態別でみると、「犬」では〈持家 (計)〉 (22.9%) が〈持家以外 (計)〉 (8.7%) より 14.2 ポイント高く、「飼っていない」では〈持家以外 (計)〉 (70.4%) が〈持家 (計)〉 (58.5%) より 11.9 ポイント高くなっている。

居住環境別でみると、「犬」では〈農山村〉が 29.5% と高くなっている。「飼っていない」では〈住宅地〉が 64.9% となっている。

地域別でみると、「犬」では〈県北地域〉が 27.1% と高くなっている。「飼っていない」では〈県南地域〉が 64.1% となっている。

市郡別でみると、「飼っていない」では〈宇都宮市〉が 64.2% となっている。

(1-1) 飼い犬の個体識別措置の実施状況

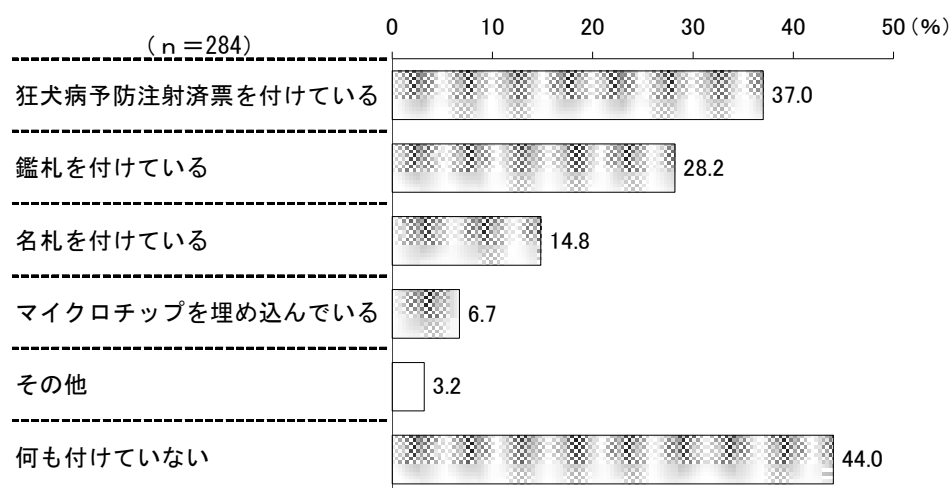
(問27で「犬」を選んだ方のみお答えください)

問27-1 あなたは飼い犬に対し、個体識別措置(※)を講じていますか。次の中からいくつでも選んでください。

※ 個体識別措置とは、鑑札や名札等を付けて、飼い主が分かるようにしておくことをいいます。

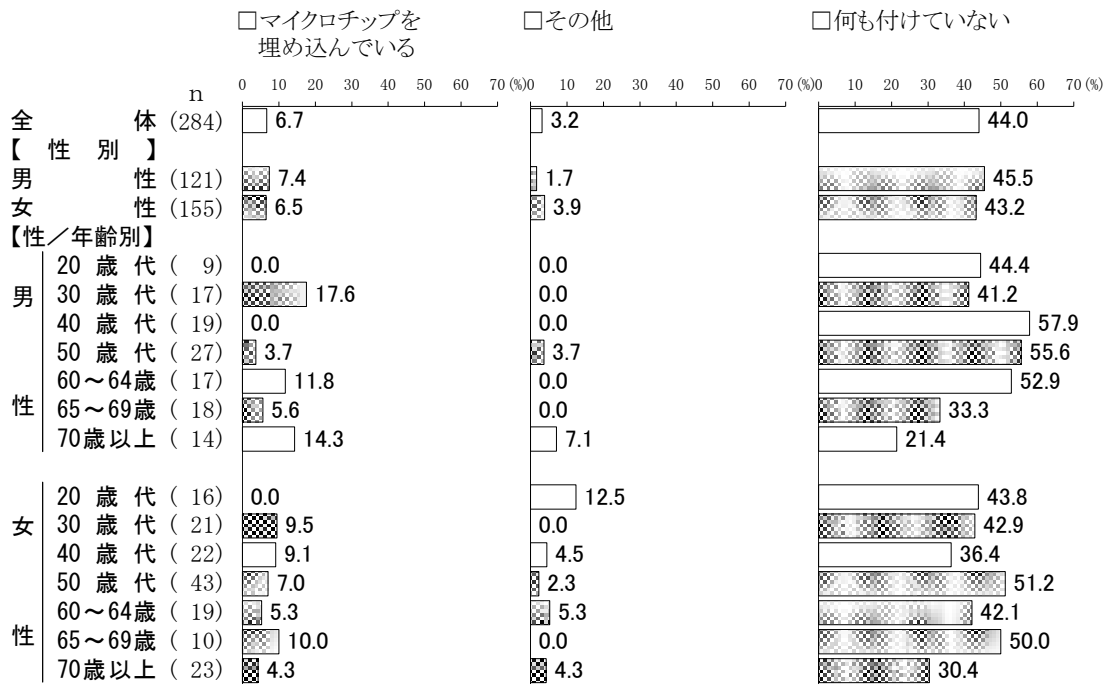
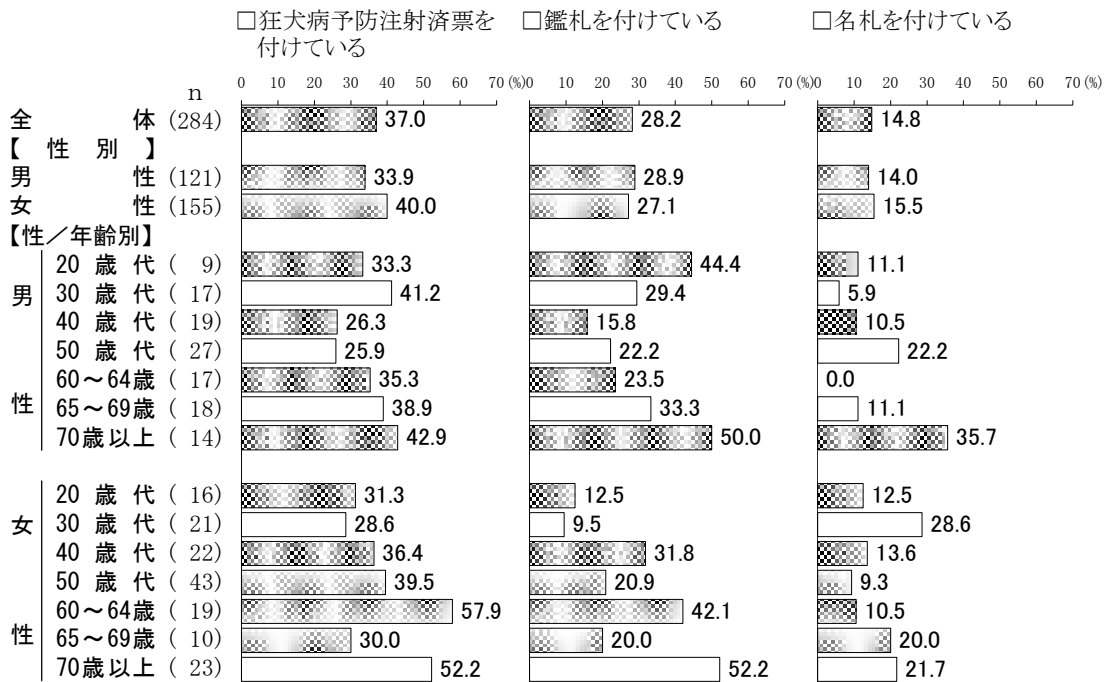
[n=284]

1 鑑札を付けている	28.2%	4 マイクロチップを埋め込んでいる	6.7%
2 狂犬病予防注射済票を付けている	37.0	5 その他	3.2
3 名札を付けている	14.8	6 何も付けていない	44.0



全体で見ると、「狂犬病予防注射済票を付けている」(37.0%)が4割近くで最も高く、次いで「鑑札を付けている」(28.2%)、「名札を付けている」(14.8%)、「マイクロチップを埋め込んでいる」(6.7%)の順となっている。一方、「何も付けていない」(44.0%)は4割半ばとなっている。

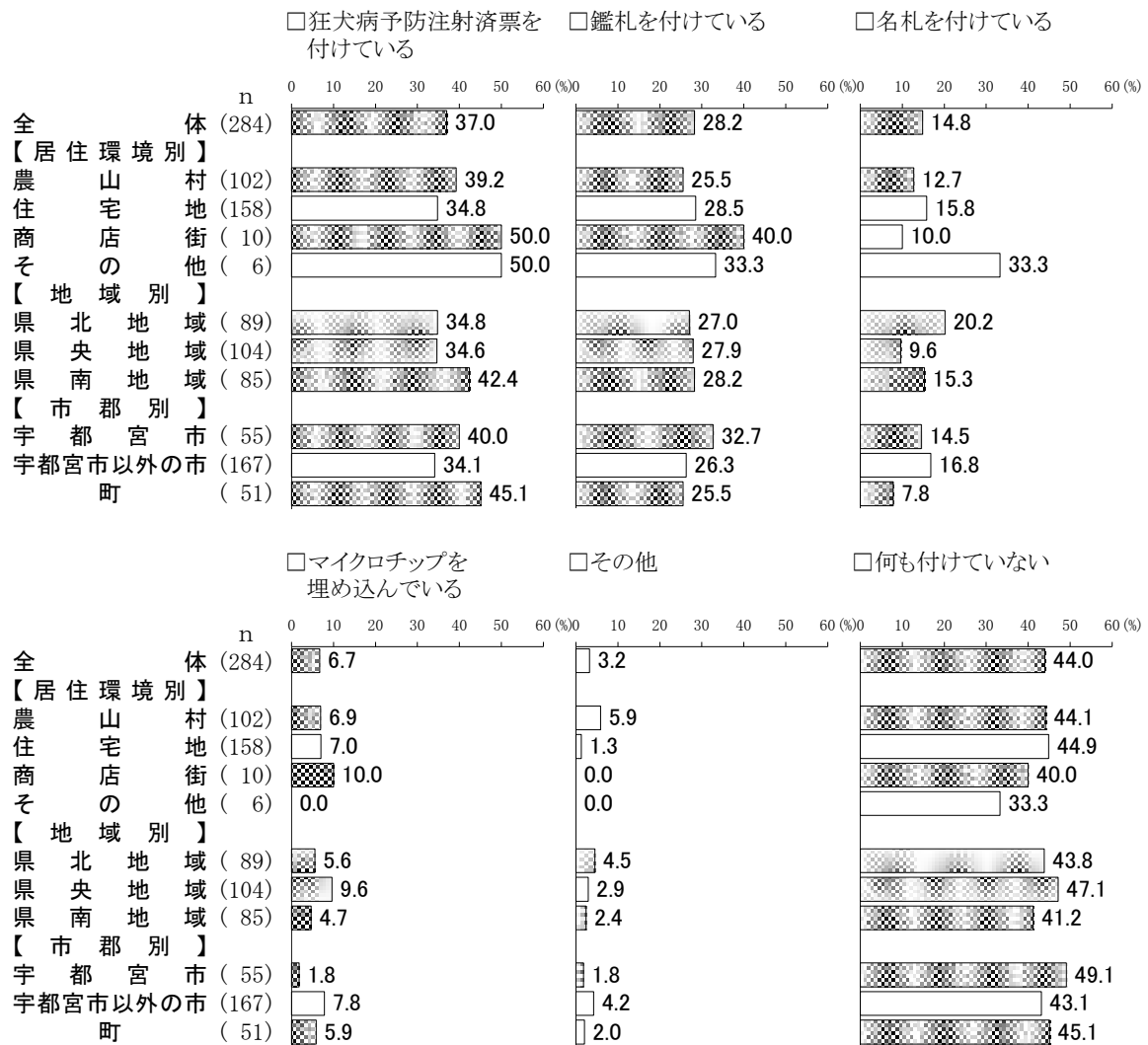
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「狂犬病予防注射済票を付けている」では〈女性〉(40.0%)が〈男性〉(33.9%)より6.1ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「狂犬病予防注射済票を付けている」では〈女性60~64歳代〉が57.9%、〈女性70歳以上〉が52.2%となっている。また、「鑑札を付けている」では〈女性70歳以上〉が52.2%となっている。「何も付けていない」では〈男性40歳代〉が57.9%となっている。

[居住環境別・地域別・市郡別]



居住環境別でみると、「何も付けていない」では〈住宅地〉が44.9%、〈農山村〉が44.1%となっている。

地域別でみると、「狂犬病予防注射済票を付けている」では〈県南地域〉が42.4%と高くなっている。また、「名札を付けている」では〈県北地域〉が20.2%となっている。

市郡別でみると、「狂犬病予防注射済票を付けている」では〈町〉が45.1%、「鑑札を付けている」では〈宇都宮市〉が32.7%となっている。

(1-1-1) 個体識別措置を行っていない理由

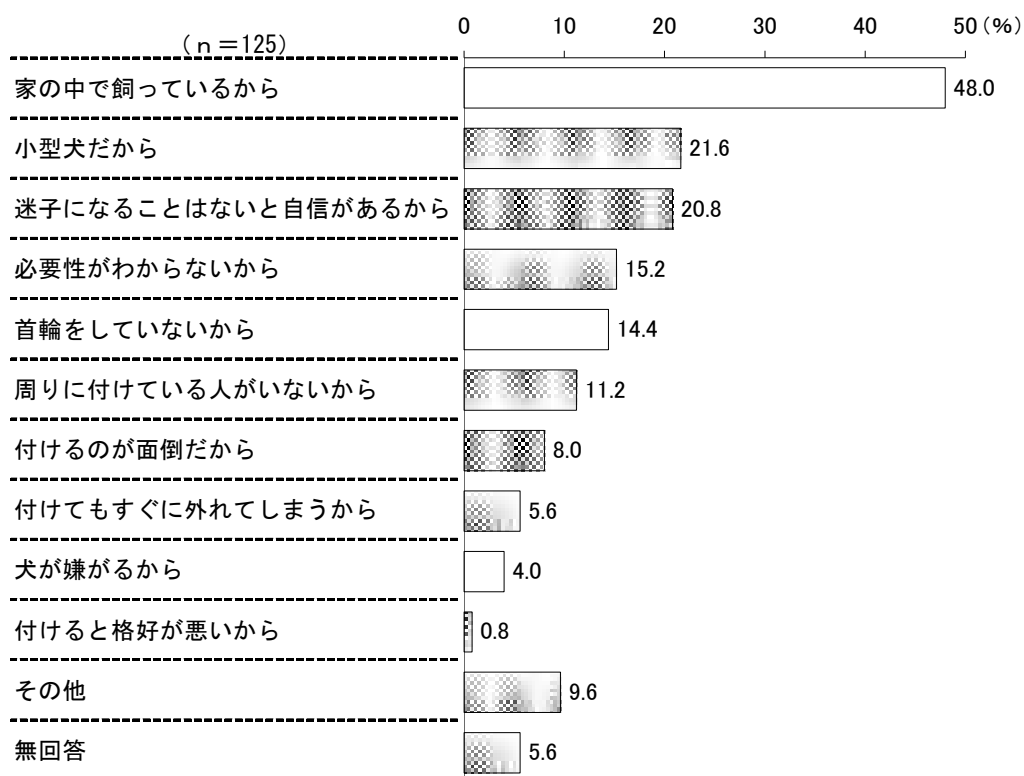
(問27-1で「何も付けていない」を選んだ方のみお答えください)

問27-1-1 あなたが飼い犬に何も付けていない理由は何ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

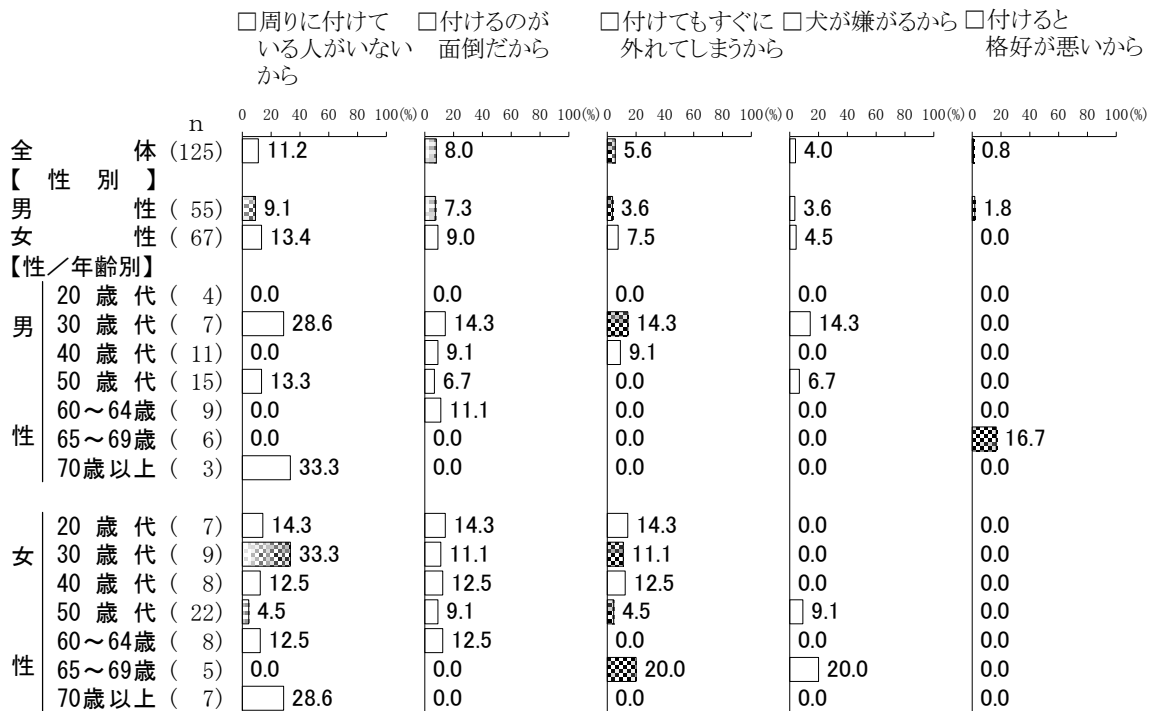
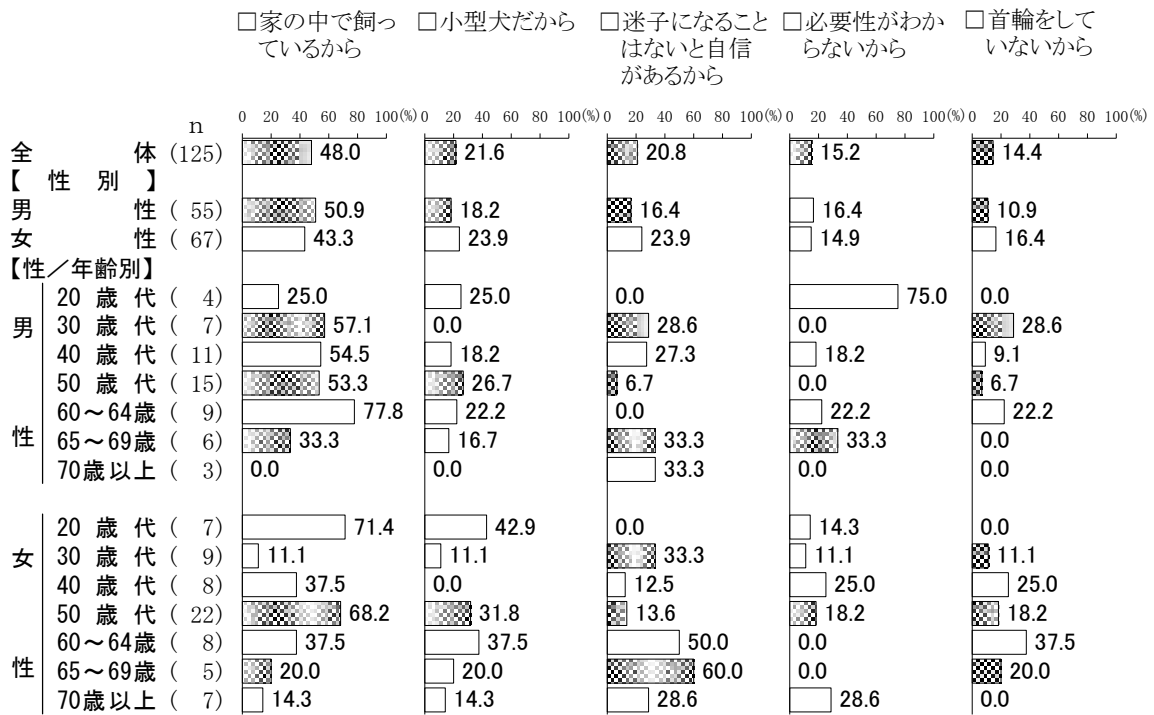
[n=125]

1	必要性がわからないから	15.2%	7	小型犬だから	21.6
2	付けてもすぐに外れてしまうから	5.6	8	周りに付けている人がいないから	11.2
3	迷子になることはない自信があるから	20.8	9	首輪をしていないから	14.4
4	付けるのが面倒だから	8.0	10	犬が嫌がるから	4.0
5	付けると格好が悪いから	0.8	11	その他	9.6
6	家の中で飼っているから	48.0		(無回答)	5.6



全体で見ると、「家の中で飼っているから」(48.0%)が5割近くで最も高く、次いで「小型犬だから」(21.6%)、「迷子になることはない自信があるから」(20.8%)、「必要性がわからないから」(15.2%)、「首輪をしていないから」(14.4%)の順となっている。

[性別・性／年齢別]

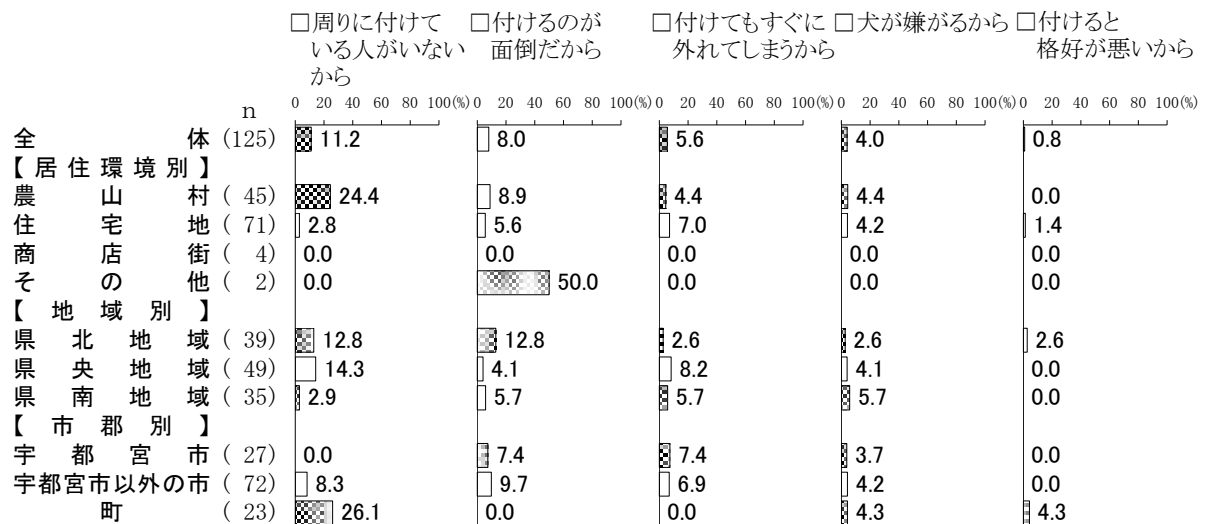
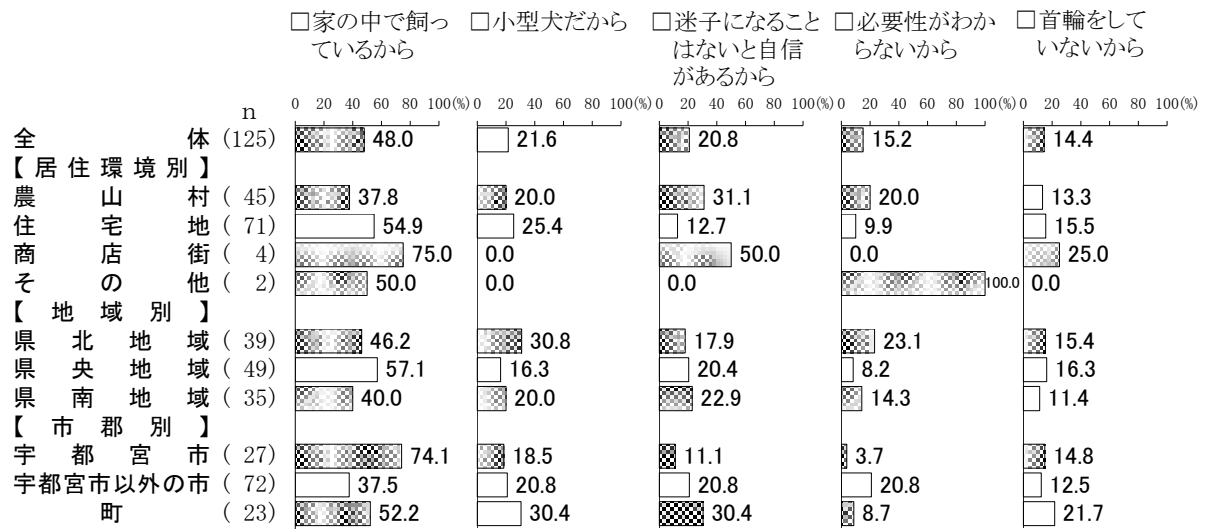


性別で見ると、「家の中で飼っているから」では〈男性〉(50.9%)が〈女性〉(43.3%)より7.6ポイント高く、「迷子になることはないと自信があるから」では〈女性〉(23.9%)が〈男性〉(16.4%)より7.5ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「家の中で飼っているから」では〈男性60~64歳〉が77.8%となっている。



[居住環境別・地域別・市郡別]



居住環境別でみると、「迷子になることはないと自信があるから」では〈農山村〉が31.1%、「周りに付けている人がいないから」では〈農山村〉が24.4%となっている。

地域別でみると、「家の中で飼っているから」では〈県央地域〉が57.1%となっている。「小型犬だから」では〈県北地域〉が30.8%となっている。

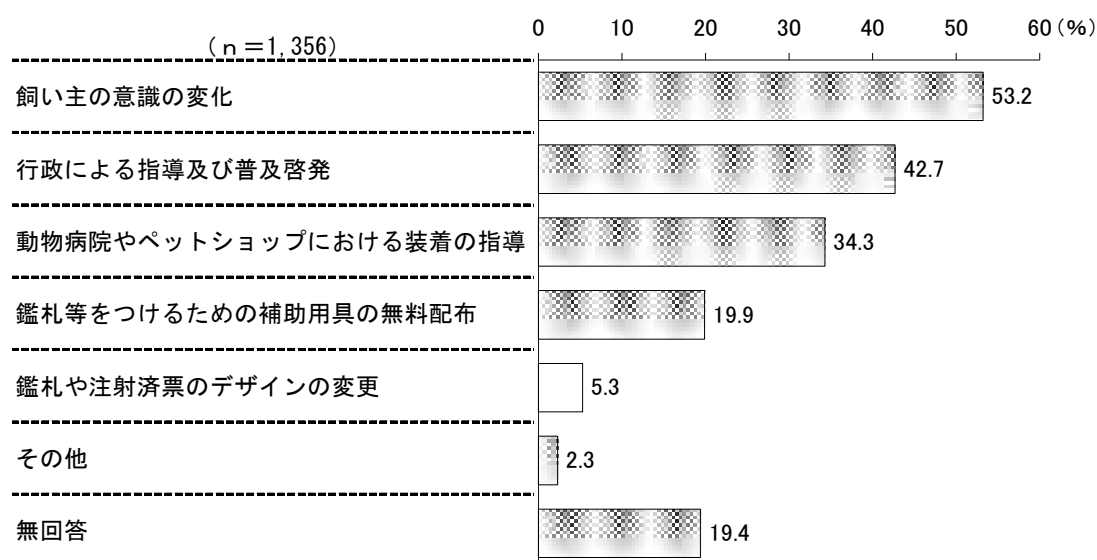
市郡別でみると、「家の中で飼っているから」では〈宇都宮市〉が74.1%となっている。「小型犬だから」では〈町〉が30.4%、「迷子になることはないと自信があるから」では〈町〉が30.4%となっている。

## (2) 個体識別措置を行う飼い主を増やすための取り組み

問28 あなたは、犬の個体識別措置を行う人が増えるには何が必要だと考えますか。  
次の中からいくつでも選んでください。

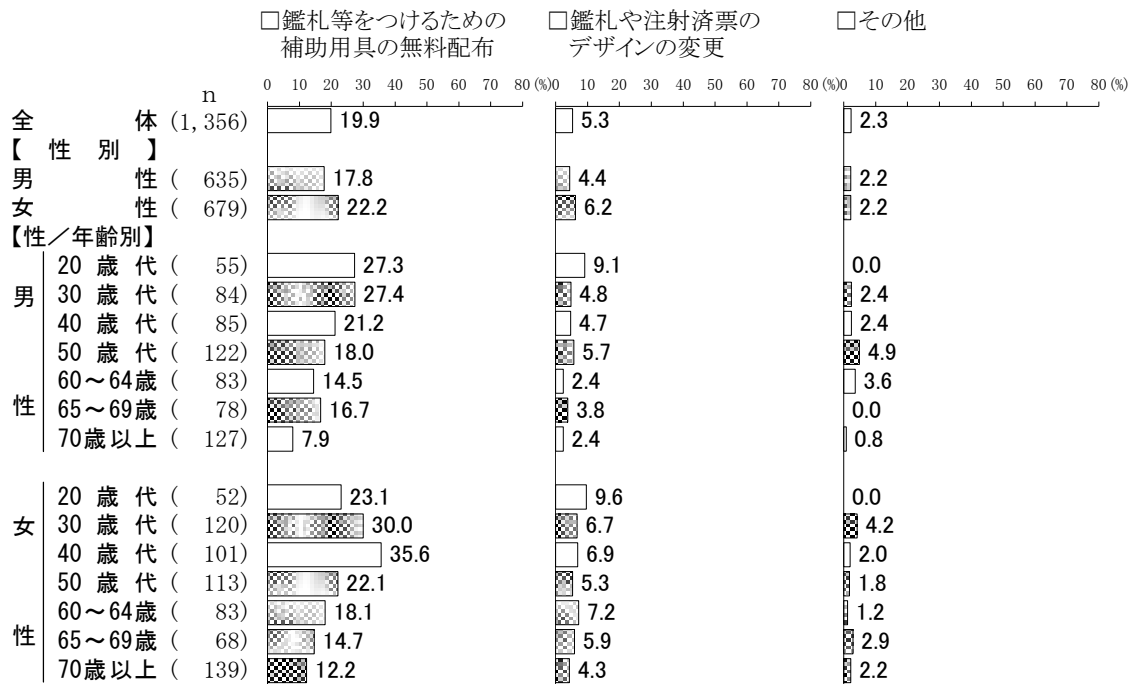
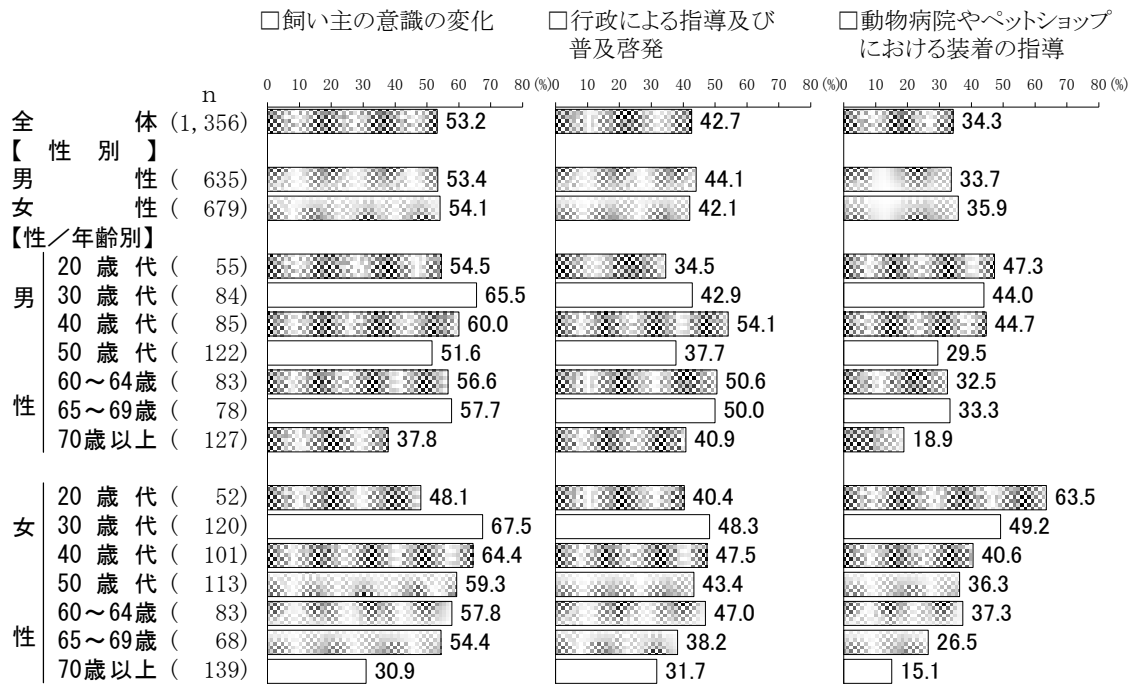
[n=1,356]

1	行政による指導及び普及啓発	42.7%
2	動物病院やペットショップにおける装着の指導	34.3
3	鑑札や注射済票のデザインの変更	5.3
4	鑑札等をつけるための補助用具の無料配布	19.9
5	飼い主の意識の変化	53.2
6	その他	2.3
	(無回答)	19.4



全体で見ると、「飼い主の意識の変化」(53.2%)が5割を超えて最も高く、次いで「行政による指導及び普及啓発」(42.7%)、「動物病院やペットショップにおける装着の指導」(34.3%)、「鑑札等をつけるための補助用具の無料配布」(19.9%)、「鑑札や注射済票のデザインの変更」(5.3%)の順となっている。

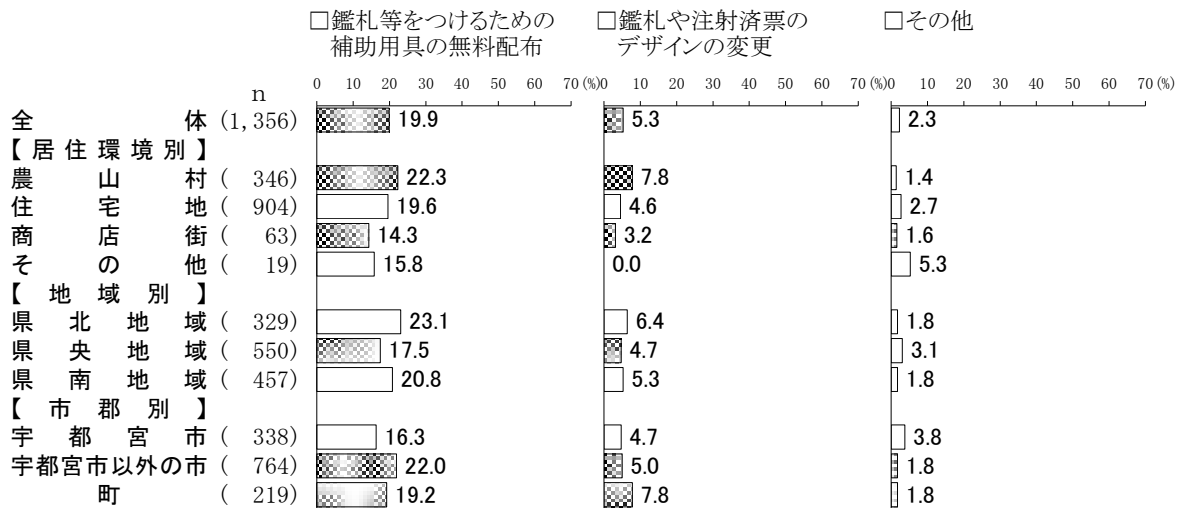
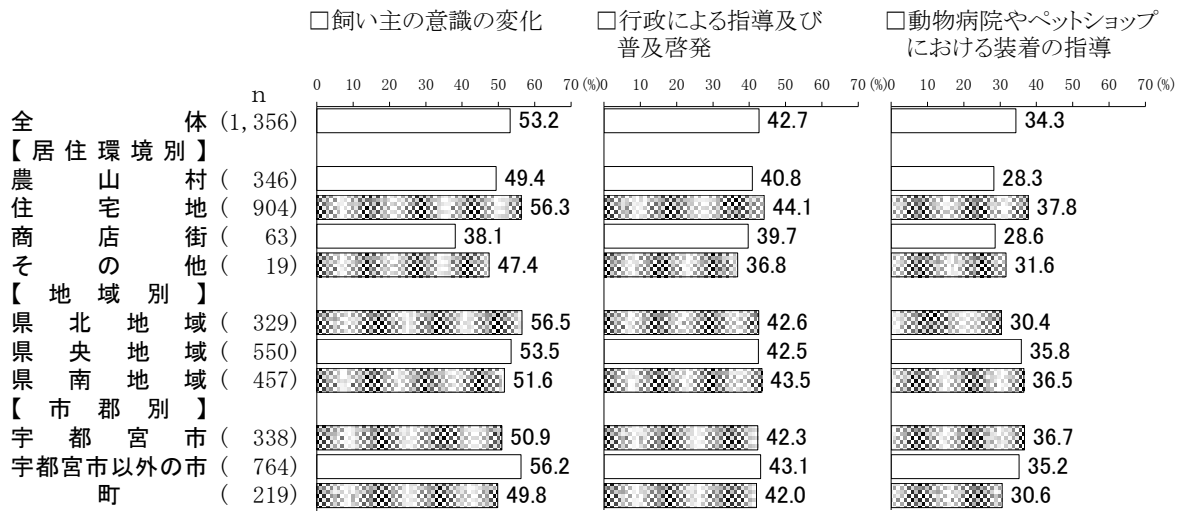
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「鑑札等をつけるための補助用具の無料配布」では〈女性〉(22.2%)が〈男性〉(17.8%)より4.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「飼い主の意識の変化」では〈女性30歳代〉が67.5%、〈男性30歳代〉が65.5%と高くなっている。「動物病院やペットショップにおける装着の指導」では〈女性20歳代〉が63.5%、「鑑札等をつけるための補助用具の無料配布」では〈女性40歳代〉が35.6%と高くなっている。

[居住環境別・地域別・市郡別]



居住環境別でみると、「飼い主の意識の変化」では〈住宅地〉が56.3%と高くなっている。

地域別でみると、「動物病院やペットショップにおける装着の指導」では〈県南地域〉(36.5%)や〈県央地域〉(35.8%)に比べて、〈県北地域〉(30.4%)で割合が低くなっている。

市郡別でみると、「飼い主の意識の変化」では〈宇都宮市以外の市〉が56.2%となっている。

### (3) 災害時のペット対策として必要なこと

問29 あなたは、災害が発生した際のペット対策として何が必要だと考えますか。  
次の中からいくつでも選んでください。

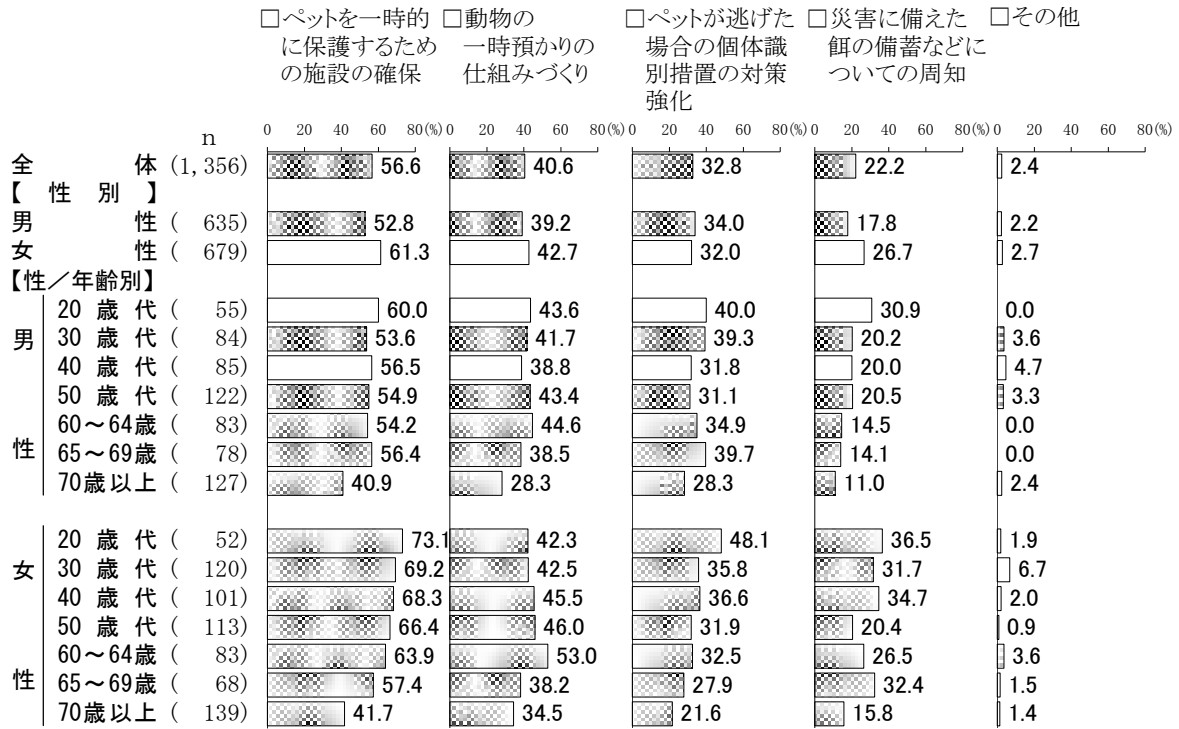
[n=1,356]

1	ペットを一時的に保護するための施設の確保	56.6%
2	災害に備えた餌の備蓄などについての周知	22.2
3	ペットが逃げた場合の個体識別措置の対策強化	32.8
4	動物の一時預かりの仕組みづくり	40.6
5	その他	2.4
	(無回答)	15.3



全体で見ると、「ペットを一時的に保護するための施設の確保」(56.6%)が6割近くで最も高く、次いで「動物の一時預かりの仕組みづくり」(40.6%)、「ペットが逃げた場合の個体識別措置の対策強化」(32.8%)、「災害に備えた餌の備蓄などについての周知」(22.2%)の順となっている。

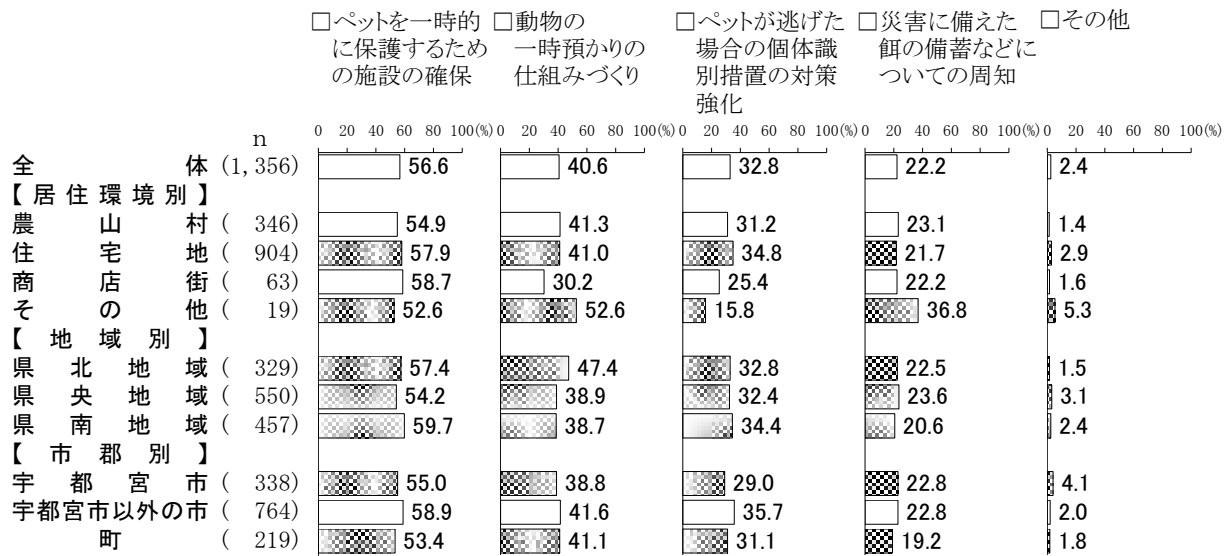
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「災害に備えた餌の備蓄などについての周知」では〈女性〉(26.7%)が〈男性〉(17.8%)より 8.9 ポイント高く、「ペットを一時的に保護するための施設の確保」では〈女性〉(61.3%)が〈男性〉(52.8%)より 8.5 ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「災害に備えた餌の備蓄などについての周知」では〈女性 20 歳代〉が 36.5%、「動物の一時預かりの仕組みづくり」では〈女性 60~64 歳〉が 53.0%、「ペットが逃げた場合の個体識別措置の対策強化」では〈女性 20 歳代〉が 48.1%と高くなっている。

[居住環境別・地域別・市郡別]



居住環境別で見ると、「ペットが逃げた場合の個体識別措置の対策強化」では〈住宅地〉が34.8%と他の居住環境に比べて高くなっている。

地域別で見ると、「動物の一時預かりの仕組みづくり」では〈県北地域〉が47.4%と高くなっている。

市郡別で見ると、「ペットが逃げた場合の個体識別措置の対策強化」では〈宇都宮市以外の市〉が35.7%と高くなっている。